【星】

二年

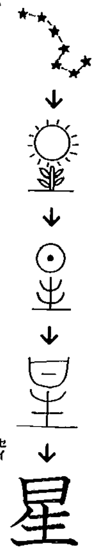
画数 9

筆順 日 旦 早 星

オン セイ・ショウ

クン ほし

成り立ち



お日さまの〝日〟と、〝生まれる〟の〝生(セイ)〟とをくみあわせてつくった字で、「お日さまから生まれた」〝ほし〟をあらわした字です。

〝火星〟〝水星〟〝木星〟〝金星〟〝土星〟はお日さまから生まれた〝お日さまの子〟とかんがえられていました。

〔この字の音は、〝生〟があらわしていて、セイが漢音で、ショウが呉音である。〕

使い方

▽夕がた一ばん先に見える星を〝よいの明星〟といいます。金星のことです。夜明(よあ)けにも一ばんあとまで光っていますので〝明けの明星〟といいます。

熟語例

▽明星(ミョウジョウ)（〝明るい星〟といういみのことばですが、金星のことをいいます。夕がたは〝よいの明星〟、明けがたは〝明けの明星〟といいます。また、社会(シャカイ)ですぐれたはたらきをした人のことを「明星のようなそんざいであった」ということがあります。）

▽恒星(コウセイ)（恒は〝つねにかわらない〟といういみ。おたがいのいちかんけいがつねにかわらない星のことで、目に見える星はほとんど恒星です。）

▽遊星(ユウセイ)（恒星とちがい、おたがいのいちかんけいがたえずかわる星なので、〝遊(あそ)ぶ星〟といいます。また、人を惑(まど)わせるので、〝惑星(ワクセイ)〟ともいいます。火星、水星など、太陽のまわりをまわる星です。）

▽衛星(エイセイ)（遊星のまわりをまわる星のこと。月は地球(キュウ)のまわりをまわるので衛星です。宇宙(ウチュウ)ロケットで地球のまわりをまわるものは〝人工(ジンコウ)衛星〟といいます。）

【晴】

二年

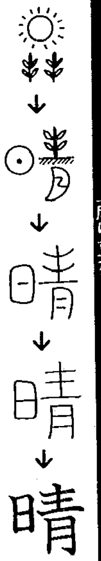
画数 12

筆順 日一 日十 日圭 晴

オン セイ

クン は＝れる＝らす

成り立ち



「そらが〝青く〟すみ、お〝日〟さまが出ている」じょうたいをあらわした字で、〝はれ〟の天気をあらわした字です。〝はれ〟〝はれる〟といういみにつかわれます。音のセイは〝青(セイ)（龶は生）〟によったものです。

また、晴れた日は気もちがさっぱりするので、「気ぶんをさっぱりさせること」を「気ぶんを〝晴らす〟」といいます。

〔青のつく字は、〝晴〟といい、〝清〟といい、〝よく澄んだ状態〟を表しているので、「物事の〝すぐれている〟状態」を表すようになり、〝精・情・静〟等の字が作られた。これには色の青は全く関係ない。〕

使い方

▽雨(あめ)があがって、空(そら)が晴れあがりました。ぼくは、やっとそとへあそびにいけるので、大(おお)よろこびしました。

▽きょうの天気(テンキ)よほうは、くもりのち晴れです。おかあさんが、「はやくお日さまが出(で)てくれないと、せんたくものが、かわかないわ」と、いいました。

▽くもひとつない快晴の空のもとで、うんどうかいがおこなわれました。

熟語例

▽晴天(セイテン)（晴れた空(そら)。空が晴れて、天気(き)がよいことをいいます。）

▽快晴(カイセイ)（快(こころよ)く空が晴れわたること。気もちがいいほどよく晴れていることです。）

▽晴雨(セイウ)（晴れと雨(あめ)。晴れか雨か。「晴雨にかかわらず、おいでください」といえば、「晴れても雨がふってもやってきてください」といういみです。）

▽晴朗(セイロウ)（天気や気ぶんが晴れわたって、朗(ほが)らかなこと。「きょうは天気晴朗で、きもちがいい」などといいます。）